

# Fons Sapientiae

仙台白百合女子大学図書館報 「フォンス サピエンティエ」



No. 13  
2013.4.1

## Contents

- ・大学図書館の今後と電子書籍
- ・図書館のレイアウト変更
- ・新着圖書の紹介
- ・推薦図書
- ・利用者の声
- ・図書館からの報告とお知らせ
- ・編集後記

## 大学図書館の今後と電子書籍

これからの大学図書館はどうあるべきか。2012年6月に開催された「日本カトリック大学連盟図書館協議会」において、カトリック大学図書館の図書館運営についての話し合いが行われました。その話題の一つに電子書籍がありました。

電子書籍とは書籍を電子化し、パソコンや携帯電話などの様々なディスプレイ上で読めるようにしたもので、電子ブック、デジタルブック、Eブック等の名称で呼ばれることもあります。電子書籍は、無線LAN等インターネットにつながる環境が整っていれば、いつでも読みたい時にその場で入手できる、本のように場所をとらない、何冊もの本を1台の端末で持ち歩ける、絶版などの心配をしなくて済む、自分に合わせて文字のサイズを変更できる、などのメリットを持っています。

電子書籍元年と言われた2010年から2年が過ぎて、2012年には楽天がカナダの電子書籍会社コボを買収して電子書籍業界に参入したり、アメリカで400万冊以上のコンテンツをもつGoogleや、Amazonの電子書籍用端末Kindleなどが日本に進出し、日本の電子書籍を取り巻く環境が整ってきたようです。

電子書籍用の端末も出揃ってきて、電子書籍リーダー、タブレット、携帯電話等の機器で見ることができるようになりました。電子書籍リーダーは、電子ペーパーと呼ばれる技術を使った電子書籍専用の端末で、目に優しいので長時間の読書に適しています。

最近いろいろな種類が出てきているタブレット端末も解像度の高いものがあり、文字が鮮明になってきている上に、コミックや雑誌等カラー版のものも大分読みやすくなりました。中には、雑誌や新聞を読むなら10インチ、コミックや小説を読むのなら7インチのタブレット、といったように使い分けしている人もいます。

携帯電話でもスマートフォンの普及に伴い、スマートフォンで電子書籍を含めたデジタルコンテンツに触れる人もかなり増えてきてい

ます。ただ、画面が小さく、長時間読むにはあまり適しているとは言えません。

電子書籍リーダー、タブレット、スマートフォン等は、携帯性に優れた場所を選ばずに読書することができます。このように電子書籍は便利ではありますが、洋書に比べると日本語のコンテンツが少ないのが欠点であり、今後、コンテンツを充実させていくことが最大の課題となっています。

さらに、インターネット上にデータを保存するクラウドサービスも普及してきています。これは、たとえば購入した書籍を端末にダウンロードしていなくても、そのサービスが提供するクラウドにデータが保管されていれば、回線が繋がるところならインターネット上から保存したデータを開いて読むことができる、といったサービスです。クラウドサービスは、書籍に限らず音楽や映画などでも提供されています。

現在、電子書籍サービスは個人の購入に適用させるものがほとんどで、大学図書館においては、電子書籍を図書館が購入して学内で閲覧できるといったサービスは今までありませんでしたが、あくまでも学内に留まるものでした。

今後は図書館で購入した電子書籍を端末にダウンロードして貸し出すサービスや、図書館がクラウドサービスに加入することによって利用者が電子書籍をどこでも見られるように提供するサービス等が、いずれは可能になるでしょう。

図書館が電子書籍についてどのようなサービスを展開していくのかは、電子書籍データが出版社等から図書館に対してどのように提供されるかといった問題も含め、今後の電子書籍業界の動向に注目して対応していく必要があります。本学図書館も時代の流れを敏感にキャッチして、利用者の方々により良いサービスを提供していきたいと思っております。

## 図書館のレイアウト変更

図書館では、2011年3月11日の東日本大震災時に本や雑誌等の落下で、通路の一部がふさがれ通行不能になったという経験を踏まえ、今年度内部のレイアウトを変更いたしました。

- (1)廊下に設置していた机や椅子を取り払い、非常時に逃げ道をより安全に確保できるようにしました。
- (2)3階の閲覧席は、入口にあったAVブースを一番奥へ移動し、見通しを良くするとともに、AVがゆったりと見られるスペースを確保しました。



図書館3階閲覧席

- (3)3号館2階からも図書館に入れるように、新たに図書館に入口を作りました。すなわち図書館2階に「第二の入口」を設置したのです。3号館2階通路に電子ロックの解除ボタンをつけ、このボタンを押すと、電子ロックが解除さ

れて扉が開く仕組みです。ただし、セキュリティの関係上、学生は入館のみで図書館側から退館することはできません。利点は、雨や雪の日などは濡れずに図書館に入ることができるようになったことです。

- (4)各階ともに、閲覧席の通路側にあったゴミ箱やミニ箒を反対側に配置し直しました。
- (5)通路に置いていた返却用ブックトラックも、通行の邪魔にならないような位置に移動しました。

以上、地震等に備えてここ一年間で変更した部分です。今後も利用者の視点から使いやすい図書館にするために、最善の努力を尽くす所存です。



3号館2階に新しくできた入口

## 新着図書の紹介 ～図書館から“NEWS”を続々発信～



### 『かあさんのこもりうた』 こんのひとみ 作 いもようこ 絵 金の星社

東日本大震災でお母さんを亡くした小学校3年生の望美(のぞみ)ちゃんのもとに届いた一通の手紙。消印は2009年5月8日。望美ちゃんが小学校へ入学するとき、購入したランドセルにそえられていた「未来へつなぐタイムレター」だった。差出人は亡くなったお母さん。望美ちゃんだけでなく、お兄ちゃん、お姉ちゃんにあてた手紙も入っていた。2011年3月11日でとまっていた一家の時間が、時をこえてとどいたお母さんからの言葉でふたたび動き出した。

お母さんからとどいた永遠の家族への思いを受けて、「くまのこうちようせんせい」などの傑作絵本を著した名コンビ“こんのひとみ”と“いもようこ”が作ったのがこの絵本である。

最新の受入として“大人になっても忘れたくない いもようこの名作絵本”や“こどものくに傑作絵本”“海外秀作絵本”などのシリーズ絵本が800冊ほど入り、絵本コーナーが一層充実されたので、読み物としてもまた保育や幼稚園等実習時の参考図書としても大いに活用いただきたい。



### 『置かれた場所で咲きなさい』 渡辺和子 著 幻冬舎

ノートルダム修道女会に入り36歳という異例の若さで岡山のノートルダム清心女子大学の学長となり、現在ノートルダム清心学園理事長を勤める著者。学長時代、初めての土地、思いがけない役職、未経験の事柄の連続でいつの間にか“くれない族”になっていた。「あいさつしてくれない」こんなに苦労しているのに「ねぎらってくれない」「わかってくれない」と自信を喪失していたときに、一人の宣教師が手渡してくれた短い英語の詩と出会った。冒頭の一行が「置かれたところで咲きなさい」で始まるその詩と出会い、著者の考え方が変わってゆく。置かれた立場に不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、自分は環境の奴隷でしかない。人間として生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人となり自分の花を咲かせようと決心したのである。それは「自分が変わる」ことによるのみ可能であった。そして自分から先に学生にあいさつし、ほほえみかけ、お礼をいう人になったら、学生も教職員も皆、明るくなり優しくなった経験を通して、心からの言葉を投げかけている。「時間の使い方は、そのまま、いのちの使い方なのです。置かれたところで咲いてください」。人生に悩んだ時、是非ひもといて欲しい一冊である。



### 『お話とその魅力：作品と話し方のポイント』 相馬和子 [ほか] 著 萌文書林

子どもはお話を聞くことが大好きである。最初から文字が読めたり書けたりするわけではないので、生活体験はまず聞くことから始まる。したがって、親や保育者がしてくれるお話には、子どもは限りない興味を示す。大人が話してくれる内容のすべてがわからなくても、自分なりに理解した世界を想像し、夢を展開させていくのである。お話は、子どもの夢や創造性を豊かにする大切な土壌であり栄養源でもある。

最近では、テレビをはじめ視覚に訴える教材が多く使用され、どうしても見るということを通して直接的に理解する機会が増えているが、テレビの画面だとイメージが固定されてしまう。その点、耳から聞いたお話は、あれこれ想像できる楽しさがあるし、お話を聞きながら、自然に情景や場面を自分の頭の中に描いていく過程は、思考力を養うことにもなり、また、話し手が自分に、どんな顔でどんな声でどんな姿で語り話してくれたのかということを通して、話し手に親近感と愛情を持つことができる。お話は、話し手の大人と聞き手の子ども、一緒に聞いている子どもと子どもの間を結ぶコミュニケーションの絆でもある。(はしがきより要約)

保育の場で、子どもたちにお話をするとき知っておきたい知識や情報をわかりやすくいねいに解説した本。



### 『等伯 上・下』 安部龍太郎 著 日本経済新聞社

書名の「等伯」とは、安土桃山時代から江戸初期にかけて活躍した絵師の長谷川等伯のことである。狩野永徳等が率いる狩野派と対抗し、「雪舟五代」を名乗り長谷川派の長として活躍した。「雪舟五代」とは有名な水墨画の絵師雪舟の弟子、等春より祖父・養父を経て自分が五代目にあたる雪舟の弟子の系譜に連なることを意味している。

等伯は能登国の戦国大名・畠山氏の家臣である奥村文之丞宗道の子として七尾に生まれ、後に奥村家から染物屋の長谷川宗清の元に養子に入ったとされている。本書は能登で絵師をしていた等伯が京都で本格的な絵師を目指すところから晩年までを描いており、その悲壮なる人生と彼の絵にかける情熱に感銘を受ける読者は多いだろう。

等伯の出身地とされる能登石川県七尾市では、2010年に等伯没後400年を記念して「とうはくん」というゆるキャラがつくられており七尾市の宣伝に役立っているが、「第148回(平成24年度下半期)直木賞」を受賞した本作によって、さらにその人気が高まるかも知れない。



### 『世界の美術館：華麗なる美の殿堂』 DVD全20巻 アイ・シー・シー 企画・制作・発売

レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」、ドラクロワの「民衆を導く自由の女神」等の有名な作品を多数所蔵する「ルーヴル美術館」をはじめとして、「エルミタージュ美術館」「プラド美術館」「ウィーン美術史美術館」「ウフィツィ美術館」など、ヨーロッパを代表する19美術館の1000点を超える絵画を収録。ハイビジョン収録による高精細画像で、色飛びを押しさえ、色彩を忠実に再現させるための超微速度撮影法と最新のデジタル画像処理がほどこされている。DVD内の美術館マップ、インフォメーション、作品データ、年表等多数の情報、150曲を超えるBGMとしてのクラシック音楽、上記の特色に、モネ、マネ、ルノワール、ピサロ、シスレー等印象派の画家16名を特集した「印象派SPECIAL 2巻」を加えた改訂版となっている。人類の叡智の結晶、その歴史の記録とも言える生の感動を映像で伝えたいとの願いから生まれた、世界最大の映像美術全集である。

この他に、NHKで放送された「世界美術館紀行」のベスト版である「世界美術館紀行 全10巻」、ルーブルの全貌に迫る「ルーブル美術館 全10巻」、西洋美術の巨匠たちが一堂に会したブルーレイ絵画全集の「世界の名画：華麗なる巨匠たち 第I・II期 20巻」等、美術関係の映像資料が多数入ったので、ぜひご視聴いただきたい。

## 推薦図書 ～こんな本に出会いました～

### 『放蕩息子 — ある薬物依存者の記憶 —』 飯室勉 著 赤井悠蔵 編 仙台ダルク・グループ

総合福祉学科 准教授  
志水 田鶴子

『放蕩息子』は元薬物依存症患者である飯室勉氏の半生を描いている。飯室氏は4年ほど前から総合福祉学科の外部講師として、薬物依存症について講義を受け持ってくださいている。

学生に薬物依存症患者の印象を尋ねると、「薬物依存症の人は怖い人だ」と話す。自分とは違う人間で、違う世界の人だと感じている。しかし『放蕩息子』を読み進めれば、当時の飯室さんが抱えていた「生きづらさ」に共感できるだろう。薬物依存症者が抱える「生きづらさ」は、「ありのままの自分では愛されてない」という確信

を持つに至ったプロセスからつくられている。大人から背負わされた「生きづらさ」を抱え、愛される自分になるために、もがく姿から人間にとって他者からの愛がいかに大切であるかを知ることだろう。

本書は自分自身を認め、受け入れれば、自分らしさを取り戻すことができることを教えてくれる。

「生きづらさ」を感じている人は、ぜひ本書を手にとって欲しい。本書には自分らしく生きるためのヒントが詰まっている。私にとっては、自分を認め素直に生きることを示唆してくれる貴重な一冊である。

### 『アメリカ仏教 — 仏教も変わる、アメリカも変わる —』 ケネス・タナカ 著 武蔵野大学アソシエート

国際教養学科 准教授  
山田 恵

仏教の各宗派が世界で最も多く集まっている都市はどこだと思いますか。それはバンコクでも京都でもなく、なんと、ロサンゼルスなのです。このアメリカ第二の都市には、現在、世界各国から伝わった80を超える宗派が集い、共存しています。

このような内容の書き出しで始まるこの本は、カリフォルニアで生まれ育った仏教学者兼僧侶のケネス・タナカ氏が、日本の読者を対象に、アメリカ仏教全体を総合的に解説した本です。

キリスト教徒の国として知られるアメリカですが、十九世紀半ばから広がり始めた仏教は、1960年代以降急速に広まり、現在のアメリカの仏教徒は約300万人で、人口の約1パーセントにまで達しています。

アメリカで仏教徒が増えた歴史的背景、仏教の広がりにより影響を与えた人物、日本の仏教との違い、仏教の広がりやアメリカ社会に与える影響など、アメリカ仏教に関するあらゆる疑問が明らかになる一冊です

### 『母性の復権』 林道義 著 中央公論新社 (中公新書)

健康栄養学科 講師  
山城 秋美

充実している時も思い悩んだ時も、いつも私の側には本があります。何度も繰り返し読むものと積読だけのものがありますが、本はその時の自分の立場や環境、心理状態によって感じ方が違い、振り返る良い機会になっています。

次の一文を読むたびに、今の自分は周囲の人からどう見られているだろう、周囲の人に不愉快な思いはさせていないだろうかと考えます。

「表情というものは、長い人生のあいだに、その人が体験してきた感情生活の現れである。感情生活が豊かで、

しかもいつも洗練された良い感情を抱えている人は、顔の表情が豊かで穏やかで、笑顔が基本になった表情になる。」

これは、美醜ではなく「表情の豊かさ」「穏やかさ」のある良い顔は周囲を明るくするということだと思います。まずは迷惑をかけない、できるならその人のためにできることは何かと考える、強くても柔らかい心と体と頭を持ち続けたいものだと思います。「父性の復権」もぜひ読んでみてください。



## 利用者の声

### 「図書館は怖いところ、という件」

人間発達学科 准教授  
氏家 靖浩

図書館に行くには勇気が必要です。なぜならば、ゲゲゲの鬼太郎の仲間のような妖怪「懐かしい本」がいて、それは私の思い出をよみかえらせて、しばらくのあいだ、私を動けなくさせるのです……。

もともと本好きな私ですが、図書館に妖怪がいることに気付いたのは、自分がとある図書館に勤めたことによってでした。その時は、病院のカウンセラー、ラーメン屋、古本屋、そして図書館と4つのアルバイトを同時にしていたのですが、一番お金にはならなかったものの、一番心

の栄養になってくれたのが図書館でした。カウンター業務では人間観察をして楽しんでいましたが、貸し出されていく本の中に、私を動けなくしてしまう妖怪のような本たちが隠れていることに気付いたのです。ところで私はまだ着任以来、本学の図書館を十分に利用していません。怖いからです。図書館近くで勇気がなくてウジウジしているくまモンみたいなメタボ中年がいたら、助けてあげてください。



# 図書館からの報告とお知らせ

## 報告

### (1) 東日本大震災関連資料の展示

大学祭開始の2012年10月27日(土)から12月21日(金)にかけて、図書館1階で東日本大震災関連の資料として、図書館所蔵の東日本大震災に関する図書を別置き、図書館内の被害と復旧の様子を写した写真をパネルに貼って展示をいたしました。大学祭にいらした来館者の方も、また本学の学生も、被災当時を思い出しながら興味深くご覧いただいた様子でした。



1階東日本大震災資料展示

### (2) 「書の展覧会」報告

図書館では、館内のレイアウト変更にともない1階廊下の一部にピクチャーレールを設置しました。そして、はじめての展示として、本学の前身である短大英語科卒業生の書家和田幸恵さんと、その指導者の書家大塚耕志郎さんの「書の展覧会」を行いました。大学祭期間の10月28日に、お二人の作品解説を交えたギャラリートークが図書館内で行われ、大変好評でした。参加者は皆、和田さんの作品に感銘を受けておられました。



和田さんと大塚さんのギャラリートーク

展覧会は大学祭の10月27日(土)から始まり、12月21日(金)まで約2ヶ月間行われ、図書館を訪れた多くの学生が作品を鑑賞していました。

2013年度の展示は未定ですが、今後も機会があれば館内の展示を続けていきたいと考えております。

### (3) 「データベース講習会」報告

図書館では、新聞系データベースや辞書系データベース、医学系データベース、心理学系データベース等、様々なデータベースが導入されており、学内でインターネットがつながる所なら、図書館のホームページから使えるようになっております。

せっかく導入されているでも使い方がわからない、では宝の持ち腐れになってしまいますので、データベース等の使い方に慣れていただくという講習会を行っています。2012年度は「日経テレコン21」「日経BP記事検索サービス」について講習会を行いました。コンピュータ演習室で実際に操作しながらの講習会は好評でした。

2013年度も講習会を行っていく予定です。参加してデータベースを使いこなしてみたい方は、図書館の掲示にご注目下さい。

### (4) 2012年度図書館関係会議・研修会報告

- ・2012年度日本カトリック大学連盟図書館協議会総会・実務研究会

期 日：2012年6月22日(金)

場 所：清泉女子大学

- ・第67回東北地区大学図書館協議会総会

期 日：2012年9月14日(月)

場 所：東北大学

## 図書館検索ツアーのお知らせ

図書館では、新入生の入学時に検索ツアーをほとんどの学科で行っておりますが、その他申し込みがあればいつでも、図書館使い方・検索の仕方・データベース等の紹介といった図書館検索ツアーを受け付けています。

一人でも2,3人のグループでもかまいませんので、どうぞ気軽に申し込んで下さい。

## 図書館利用状況

2012年4月1日～2013年2月28日

学科	人数	入館人数	学科・専攻 入当(回)	貸出冊数(冊)	学科・専攻 貸出人数(人)	学科・専攻 入当(回)	AV 閲覧回数(回)	学科・専攻 入当(回)	AV 閲覧人数(人)	学科・専攻 入当(回)	
人間発達学科	346	3,566	10.3	1,097	3.2	549	1.6	565	1.6	505	1.5
総合福祉学科	210	3,469	16.5	1,552	7.4	715	3.4	210	1.0	195	0.9
健康栄養学科	322	2,938	9.1	1,294	4.0	639	2.0	140	0.4	121	0.4
国際教養学科	223	2,925	13.1	603	2.7	273	1.2	178	0.8	157	0.7
特別聴講学生	4	33	8.2	25	6.2	12	3.0	2	0.5	2	0.5
専任教職員	103	928	9.0	452	4.4	194	1.9	1	0.0	1	0.0
一般利用者(非常勤等含)	—	429	—	556	—	243	—	0	—	0	—
計	1,208	14,288	11.8	5,579	4.6	2,625	2.2	1,096	0.9	981	0.8

## ◆ 編集後記 ◆

近年、電子書籍等の普及で図書館から目に見える形の本が少なくなっていく可能性がありますが、図書館が知識の宝庫であることに変わりはありません。

大学における勉強は、各自が自主的に取り組むことが基本ですが、そのために情報と資料が一杯に詰まった図書館は大いに助けになります。学生が研究・学習する場として図書館を十分に活用してこそ、図書館の存在理由があるのです。

毎年、蔵書が増えていきます。在学四年間、是非、図書館に親しんでください。  
(図書館長 芳野総子)

図書館報は今回の第13号から年に1回発行することになりました。デザインなども少し変えてリニューアルを計りました。ページ数は減りましたが、その分図書館からの情報を盛り込んで充実させていく予定です。

今回は近頃問題になっている電子書籍の動向について、詳しく報告させていただきました。

お気づきの点や意見等ございましたら、気軽に図書館のスタッフにお話しただければ、今後に反映させていきたいと考えております。

(事務長 生出登)